

| 学校番号 |   |   |   |   |
|------|---|---|---|---|
| 3    | 7 | 0 | 0 | 7 |

## 令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 19 日

札幌市立 西野中 学校

### 1 今年度の重点目標

- |               |               |              |
|---------------|---------------|--------------|
| 1 高い知性と学ぶ力の充実 | 2 豊かな心情の育成    | 3 健やかな体の育成   |
| 4 特別支援教育の充実   | 5 小中一貫した教育の推薦 | 6 信頼される学校の創造 |

### 2 本年度の経営方針

- |   |
|---|
| 1 一人一人の生徒をかけがえない命を持つ人間として大切にされた教育活動の推進。 |
| 2 教職員相互の信頼関係に基づいた協力体制を基盤とした学校運営         |
| 3 学校間、保護者、地域、関係機関との連携による学校教育の充実         |

### 3 自己評価結果に対する学校関係者評価

| 分野               | 重点項目                               | 評価項目  | 自己評価 |  | 学校関係者評価  |         |
|------------------|------------------------------------|---|------|--|----------|---------|
|                  |                                    |   | 達成状況 | 改善方策   | 自己評価の適切さ | 改善策の適切さ |
| 調和のとれた育ち         | 学ぶ力                                | 「学ぶ力」育成プログラムの実施   | A    | 「授業では自分（お子様）の成長を感じられる機会がある」との問いに、生徒の93%、保護者の82%が肯定的回答をしている。生徒の肯定的回答率の高さはTTや合理的配慮などの充実、協働的な学び、個別最適な学びを実行できる取組を行っている成果であると思われる。反面、保護者の回答における「お子さんは主体的に学習に取り組んでいる」は75%であり、引き続き「分かる」「できる」「楽しい」が実感できる授業づくり・学習習慣作りに向け、研修を推進する必要がある。  | A        | A       |
|                  | 豊かな心                               | いじめの防止  | A    | 昨年度に引き続き、西野中「いい日」の取組を通して、「いじめ」の未然防止、早期発見を図った。また教育相談も随時実施し、いじめにつながらないような対策も行っている。本年度も生徒、保護者とも「先生方はいじめや暴力のない学校づくりに努力している」への肯定的回答が95%を超えており、次年度も全校態勢でいじめの防止に努めていきたい。  | A        | A       |
|                  | 健やかな体                              | 「健やかな体」育成プログラムの実施   | A    | 本年度も保健体育科の授業の工夫、養護教諭による指導などを継続し、生徒自身が自分の健康について意識する場面を設定したり、部活動を効率的に行っている。「保健体育の授業や部活動は、体力向上や健康な生活を送ることに役立っている」の肯定的な回答が、生徒・保護者共に95%以上である。<br>来年度も「保健たより」「給食たより」などを通して、「健やかな体」づくりの更なる充実を図る。また、部活動の在り方や運営方法について、全市・全国的な流れを注視しながらバランスよく改善していきたい。   | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会による意見  |                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「知・徳・体の調和のとれた育ち」の各項目において、生徒・保護者ともに肯定的な意見が概ね90%となっており、学校で取り組んだ成果が示されている。</li> <li>思春期のためか、本音が話せない生徒の心の内を、少しでも出すことができる場を設定できるとよい。</li> <li>今後も、子どもたちがより良い環境で学校生活が送れるようにしてほしい。</li> </ul>   |      |  |          |         |
| 札幌らしい特色ある学校教育の推進 | 学びの基盤となる【読書】                       | 生徒の「知的好奇心」の向上と自ら学び続ける心を培う「読書」活動の推進  | A    | 朝読書の習慣は概ね身につけている。図書館司書により各学年に読書本を設置したり、図書だよりによって新刊の紹介をすることで本への関心が高まり、利用者数も更に増えている。来年度からも読書の面白さを伝える工夫を行いたい。   | A        | A       |
| 子どもの発達への支援       | 不登校支援                              | 不登校の未然防止とともに、個々の生徒事情を踏まえたきめ細やかな指導の充実  | A    | 生徒用学校評価アンケートで“先生方は悩みや問題に親身に対応している”という問いに97%が肯定的回答を示している。また、保護者からも94%が教職員は親身に対応しているという肯定的回答を得た。しかし学校に足が向かない、悩みを誰にも話せないと答える生徒もおり、誰一人置いていくことがない学校づくりに努めたい。<br>今後とも、教育相談の時間を確保し、日常的な学校生活での声掛けや教育相談の時間の確保など相談の受け皿を広げていく。また、学びの支援委員会、ケース会議を中心に、担任・学年・スクールカウンセラー・相談支援パートナーとの連携を密にし、個に応じた適切な対応をこれまでと同様に推進していく。 | A        | A       |
| 信頼される学校の創造       | 教員の資質・能力の向上                        | 小学校の学びの連携性を意識した指導計画や指導方法の充実   | A    | 昨年度より春の札幌教研を中心に小中交流を行っている。次年度よりコミュニティ・スクールとして出発することになり、今まで以上に小中連携を密にし交流を行ってほしい。  | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会による意見  |                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの項目において、学校及び関係する機関等との連携や、その具体的な取組が示されている。</li> <li>朝読書の習慣を今後も続けてほしい。</li> <li>不登校支援は様々大変な面もあるが、ぜひ一人一人を大切にされた対応をお願いしたい。</li> <li>学校でどのように教育活動を行っているかを、より分かりやすく地域や保護者に周知する工夫をお願いしたい。</li> </ul>  |      |  |          |         |
| 学校独自に設定する分野      | 個に応じた指導（TT、少人数、学びのサポート、教育相談等）の充実   |   | A    | 各学年の複数教科でTTを行うことができた。学びのサポートも、概ね計画通りに活用することができた。教育相談は時数を確保して実施することができている。次年度は更に学年の実態や個に応じた指導体制を強化していく。   | A        | A       |
|                  | 個別の教育支援計画、指導計画に基づいた組織的できめ細かな生徒支援   |   | B    | 校内学びの支援委員会を中心に、ケース会議・支援シートによる該当生徒の情報共有や支援内容の協議を充実させた反面、個別の教育支援計画の共有や教職員の関わり方などの問題点を洗い出し、次年度は全ての教職員が関わるきめ細かな生徒支援の実現を目指したい。  | A        | A       |
|                  | 教職員の心身の健康に配慮した働きやすい職場環境の確立         |   | A    | 「働き方改革」の観点から、勤務時間の適正管理や職員室内の良好な雰囲気の醸成を図った。しかし業務量及び内容、分担等において見直しを図らなければならない課題も多々ある。充実した教育活動を行うためにも、教職員の心身の健康維持は不可欠である。早急に対策を考えていく必要がある。   | A        | A       |
|                  | ICT活用の促進など、学校施設設備の効果的な活用を図るための環境整備 |   | A    | 小学校での指導もあり、生徒自身がクロームブックを使いこなすことができているという意識が高くなっている。また、授業内でも効果的に活用している場面が増え、行事などや学習テーマについてクロームブックでまとめて発表するなど積極的に進んでいる。次年度も効果的な活用法を更に進めていきたい。  | A        | A       |
| 学校関係者評価委員会による意見  |                                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの項目において、次年度以降の明確な方向性が示されている。</li> <li>適正な教育活動及び事務執行等にあっては、自己評価にある通り教職員の心身の健康維持が不可欠である。現に認識している課題（業務量及び事務分担等の見直し）についてはすでに対策を検討されていることかと思われませんが、今後既存事務の簡素化、集約化または排除等、具体的な対策が示されることを期待する。</li> <li>限られた時間での業務への負担感があることは思うが、だれか一人の先生が孤立することなく、働きやすい環境にしていただけならと思う。</li> </ul> |      |  |          |         |